

豪州大学 留学生獲得・選考・EMの

先進事例研究成果報告

—豪州 5 大学及び外国学歴・評価機関等 3 機関現地調査—

International Student Recruitment, Admissions, and

Enrollment Management in Australia:

Hearing from 5 Universities & 3 Foreign Credential Evaluation

Service Providers

立命館大学国際入学課 谷元 悠加

東洋大学国際部国際推進課主任 神田 延男

大阪大学高等教育・入試研究開発センター兼インターナショナルカレッジ教授 三森 八重子

TANIMOTO Yuka

(International Admissions Officer, Ritsumeikan University)

KANDA Nobuo

(Chief, International Affairs Section, International Affairs Office, Toyo University)

MITSUMORI Yaeko

(Professor, Center for the Study of Higher Education and Global Admissions, International College, Osaka University)

キーワード：アドミッションズ、エンrollment・マネジメント、リクルートメントシステム、

豪州大学、教育の質の保証、外国学歴評価、海外の大学との交流

はじめに

本稿は、2016年3月に実施された「豪州大学 留学生獲得・選考・EMの先進事例研修（以下、「研修」という）」の参加者のうち3名が、I章. 豪州の高等教育の国際化と資格フレームワーク/認証（立命館大学 谷元悠加）、II章. The University of Sydneyの留学生リクルートメントとアドミッション（東洋大学 神田延男）、III章. 豪州の留学生選抜およびリクルート戦略=RMITの事例（大阪大学 三森八重子）について、他の大学との比較や所感なども含めて報告する。本研修では、下記5大学を視察し、外国学歴・

評価機関や留学エージェント等3機関によるブリーフィングに参加した。

【大学】RMIT, La Trobe University, University of Melbourne, The University of Sydney, The University of New South Wales

【機関】The Qualifications Recognition Policy Team, Department of Education and Training, Australian Government, International Education Association of Australia, IDP Education

I 章：豪州の高等教育の国際化と資格フレームワーク / 認証 Internationalization and Qualifications Frameworks / Recognition of Higher Education in Australia

＜立命館大学国際入学課 谷元 悠加＞

本章においては、University of Melbourne で実施された研修と豪州政府の外国学歴・評価機関によるブリーフィングを基に、豪州の高等教育の国際化の概要並びに、豪州における資格認識と資格フレームワークの概要について報告する。

1. 豪州の高等教育の国際化 ～Australian context for internationalization～

豪州の高等教育は43の大学（うち国公立大学が40）と132の職業訓練学校を含む非大学教育機関（NUHEI：Non-university higher education institutions）によって構成されている。豪州の全学生の約93%が40ある国公立大学に在籍している¹。

豪州は国家的優先課題として30年間にわたり高等教育の国際化を推進してきた。その結果、豪州の大学は国際教育において高い評価を得ており、多くの大学が世界大学ランキングの上位に位置づけられている。また、留学生誘致については特に成功している。2014年のデータ²によると、豪州の全大学生（1,176,801人）のうち約1/4（271,494人）を外国人留学生在が占めており、留学生の構成比はルクセンブルグに次ぐ第2位³である。定性的に評価することは難しいものの、あらゆる英語のレベル、学力背景を持った学生に対応したプログラムを提供していることから、カリキュラムの国際化も進んでいるといえる。

しかしながら、豪州の大学は留学生に対して経済的な支援をすることでその量的拡大を図ってきたわけではない。非納税者である留学生には学費を全額請求する「Full Fee 政策」を1980年代中頃に導入し、留学生が負担する授業料は、豪州国内学生の2～3倍となっている。その結果、教育は豪州で

¹、²University of Melbourne での研修で用いられた、Australian Government, Department of Education and Training 発表の「2014 First Half Year student summary infographic」より。発表のデータより。

³ Research Snapshot by Department of Education and Training, Australian Government, Feb. 2016 より。

3番目に大きな輸出産業⁴へと成長している。長年にわたり国を挙げて戦略的に高等教育の国際化を推進してきた成果といえる。

一方、国内学生に対してはHECS制度（Higher Education Contributions Scheme）⁵による優遇措置をとってきた。HECS制度とは、豪州国籍、あるいは国が定める条件を満たした永住権保持者が対象の教育補助制度である。在学中の授業料の大部分を政府が負担し、学生は卒業後に一定以上の所得を得るようになった時に、所得に応じて無利息で授業料を返済する。所定の所得水準に満たなければ返済義務はない。教育機会の拡大に資する施策であるといえる。一方、国の財政的側面から、生じる負債を懸念する指摘もある。また、大学の収入の7割以上が留学生からもたらされているケースも多く、留学生による学費収入なしでは経営が成り立たない大学も少なくないとのことである。

豪州が留学生誘致に成功してきた主な要因として以下の点が挙げられる。

<非政策的要因>

- ・アジアの高等教育需要増加国との地理的距離
- ・生活環境、治安
- ・英語圏であることによるアクセシビリティ
- ・欧米方式の高等教育の提供
- ・「豪ドル安」による学費、生活費負担の軽減

<政策的要因>

- ・高い教育の質（豪州政府は、大学に一定の調査を行うことを義務付けることで、教育の質の維持と向上に努めている。）
- ・豪州での就労機会（卒業生ビザ（Graduate Visa）は専攻分野にもよるが、卒業後2～4年間豪州で就労が可能。その後永住権獲得のチャンスが開かれることもある。）
- ・国を挙げてのプロモーション（Austrade）

一方、多様な留学生の受入に伴い豪州の大学が抱える課題は、以下の点である。

- ・授業における高い英語力の担保
- ・留学生の進学動向（ビジネス、エンジニアリング、ITなどへの集中）による学部間の経済的格差
- ・国内学生と留学生の交流促進
- ・学術資格のねつ造、教育現場の不正（盗作、オンラインエッセイ作成サービスの普及など）

⁴ Australian Government Department of Foreign Affairs and Trade 発表の「Australia's top 25 exports, goods and services, 2015」より。

⁵ 2005年に制度改革が行われ、新たにHELP制度（Higher Education Loan Programme）が導入された。従来のHECS制度はHELPの一環として位置づけられ、HECS-HELP制度と称されている。

2. 豪州における資格認証と資格フレームワーク

(1) Australian Qualifications Framework (AQF)について

AQF は、豪州の中等・高等教育・職業訓練における資格認定制度である。義務教育後の中等教育から博士号までの範囲の教育・職業訓練を対象としていて、10のレベルと14の資格に分けられている。各レベル・資格取得に要する一般的な学習成果を基準にレベル分けされており、その学習成果は、知識、スキル、それぞれの応用力と実践力の3つを評価軸にしている。

AQF は、豪州全土の中等・高等教育・職業訓練の基準の統一化を目的に1995年に導入された。その結果、例えば、地理的に遠く離れたシドニーとパースで同じ教育制度、学習成果が認証されるようになり、異なる基準や資格によって引き起こされる障壁がなくなった。

AQF の特徴として挙げられるのは、これまでの学習成果 (prior learning) を評価・認証する制度が整っていること、各中等・高等教育レベル・資格間、職業訓練レベル・資格間、中等・高等教育と職業訓練のセクター間のアクセス経路 (streamlines、pathways) を示していることである。例えば、高校卒業後に職業訓練学校に通った学生がその後大学へと進路変更を試みた際に、大学で一から単位を修得し直さなくても、職業訓練学校で取得した資格によって、1年や2年でBAの資格を取得することが可能である。また、就職後、キャリアアップのために再度大学に進学することも比較的容易となっている。この様に、職種や専門に縛られることなく、本人が希望した時点で進学すること、訓練を受けることを可能としている。

2) 豪州における資格認証と資格フレームワーク

Australian Qualifications Framework (AQF)

10レベル、14資格に分類

職業 訓練	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Level 1 : Certificate I ▪ Level 2 : Certificate II ▪ Level 3 : Certificate III ▪ Level 4 : Certificate IV
両セク ター	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Level 5 : Diploma ▪ Level 6 : Advanced Diploma, Associate Degree
大学	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Level 7 : Bachelor Degree ▪ Level 8 : Bachelor Honors Degree, Graduate Certificate, Graduate Diploma
両セク ター	
大学	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Level 9 : Masters Degree ▪ Level 10 : Doctorate Degree



※メルボルン大学の研修資料より抜粋

<特徴>
 ・義務教育修了後の教育
 ・学習成果（知識、スキル、応用力）を基に分類

また、AQF は高等教育機関や企業と連携し、資格要件を策定している。豪州とニュージーランドの600～700もの職種の資格を対象としており、資格と就職の相関性や就職率といったあらゆるデータや統計を提供している。企業が求める能力、知識を基準に取り入れることで、社会と経済の発展に求められる人材輩出に寄与している。

(2) 海外資格との比較について

The Qualifications Recognition Policy Team (QRPT)⁶では、豪州の資格枠組みであるAQFの国際的認証率の向上と、AQF以外の海外資格の認定支援をすることで学生と社会人の流動性向上を図っている。AQFに定められた資格は海外でも認証されており、資格取得により進学や就労する機会が開かれることから、オーストラリア人よりも留学生に広く認知されている。このようなことから、AQF資格は豪州が留学先に選ばれる大きな要因のひとつとなっている。国際的に留学生獲得競争が熾烈化する中で、QRPTでは、透明性と信頼性の高い、公正かつ無差別の資格枠組みの構築と資格認定の推進に注力している。

また、AQF資格の評価を向上することは豪州の経済的生産性を高めるための策でもある。豪州で労働力が不足している業種・職業に就労するための資格を保持し、その職業へ従事することを希望する外国人は永住権を得ることができる。永住目的でAQF資格の取得に励む外国人も少なくないとのことである。なお、豪州では年間約18万人が永住権を獲得している。

(3) Country Education Profiles (CEPs) Online

Country Education Profiles (CEPs) Onlineとは、豪州の教育訓練省が運営する各国の資格枠組みや教育制度を案内・照合するサイトであり、メンバー登録をすると閲覧が可能となる。127カ国の教育制度を網羅している。約7千人のウェブサイト活用者のうち8割が豪州、2割が海外のメンバーであり、利用者は各国政府機関、高等教育機関、移民弁護士、国際企業の人事部などである。提供している内容は主として以下の通りである。

- アセスメントガイドライン：豪州資格枠組み（AQF）と海外の資格の比較
- 各国の教育システム：各国の教育システムに関する最新情報
- 機関のリスト：認定されている高等教育機関のリスト

⁶ 豪州の教育省による資格認定のための国立情報センター。以前の名称は「NOOSR (National office for overseas skill recognition)。他の国・地域の資格の枠組みと豪州の資格の枠組み（AQF）の相関性を研究し、教育機関、企業、移民弁護士などに情報を提供。相関性に関する助言はするが、資格を認定するかどうかの意思決定は、資格保持者を採用または受け入れる企業や教育機関に委ねられている。

3. 所感

豪州が留学生獲得に成功しているのは、国際教育を国家的優先事項として捉え、政府、大学、職業訓練学校、エージェントが一丸となり戦略策定、データ分析に注力してきたからである。また、世界的に認められた資格の取得や卒業後のビザ延長といった、留学生にとってメリットの多い政策が整えられていることもその要因のひとつである。

各国が優秀な留学生の獲得にしのぎを削る中、国内の留学生数を拡大していくためには、各大学の自助努力のみならず、留学生獲得に資する政策の策定、社会基盤の構築を、政府、大学、社会が一体となって推進していくことが必要であると考えられる。

II章：The University of Sydney の留学生リクルートメントとアドミッション

International Student Recruitment and Admission at Sydney University

＜東洋大学国際部国際推進課 神田 延男＞

本章においては、豪州大学の留学生リクルートメントとアドミッションについて、The University of Sydney の事例を中心に他の大学の状況と比較しながら報告する。

1. The University of Sydney 概要

The University of Sydney は1850年にニューサウスウェールズ州に設立された、16学部3,400人のアカデミックスタッフを擁する豪州最古の名門大学である。学生数は大学院生を合わせ約52,000人、内留学生は約10,000人（約19%）となっている。中国をはじめ134カ国から留学生を受け入れており、日本人は約600人在籍する⁷。世界ランキングはQS World University Rankingsで45位、Times Higher Education (THE) World University Rankingsで56位となっている⁸。

2. 豪州における留学生ビジネス

米国や英国と同様、豪州は留学生を積極的にリクルートしている。2015年の統計では、教育産業は豪州の輸出産業の中で、鉄鉱石や石炭について第3の輸出産業になっており、その額はAUD\$18,634

⁷ 2016年3月の訪問時点

⁸ 訪問した5大学の内Top100にランクインしている大学においては、この2つの世界ランキングが冒頭で紹介された。どの大学も重要視している指標である。

百万ドルで豪州の輸出産業全体で 5.9%のシェアとなっている⁹。教育産業の多くの部分を留学生の学費が占めており、各大学でも留学生は一大ビジネスとして捉えられている。

そのため、各大学の留学生比率も高い。The University of Sydney では留学生の割合が 19%程度であるが、University of Melbourne では約 22%、RMIT は約 25%、The University of New South Wales (UNSW) では約 37%の留学生を受け入れている。留学生は国内学生の 2~3 倍の授業料を払う必要があり、奨学金もほぼ支給されないが、豪州大学に対する世界的な評価は高く、留学生を魅了している。

3. The University of Sydney のリクルートメント

各大学とも留学生の学費収入が大学全体の収入に大きく影響を与えるため、リクルート活動を積極的に展開している。The University of Sydney では、リクルートメント組織とアドミッション組織が分業しており、リクルートメントは Global Student Recruitment & Mobility という組織が担い、約 80 人が所属している¹⁰。

留学生獲得施策は 5 年毎に見直しているが、2000 年以降のインターネットの爆発的な普及により、リクルートのターゲットとなる生徒・学生が Millennials 世代¹¹へ移行したことで、リクルートメント戦略を大きく見直している。インターネットが発達した今日、前例の無い変化が次々に起こりそれが複雑化していること、非常に競争が激しい市場となってきたこと、留学生の留学に対する価値観・期待が変化していること、オープンエデュケーションの普及、などから、リクルートメントチームのミッションを、学生の質の確保 (Quality of students)、学生の多様性 (Diversity of our student body)、提供するプログラムの多様性 (Diversity of programs studied) の 3 つに再定義している。それらミッションのもと、社会的、文化的に多様な経歴を持った秀でた才能を有している学生 (国内外問わず) を魅了することを目標に、各国 (豪州含む) のリーディングスクールに在籍する生徒・学生 (現役大学生含む)、キャリアチェンジを狙っている社会人、Professional Development を求めている専門家 (教職員など) などをターゲットにリクルート活動を進めている。その活動は、学生が The University of Sydney を認知する段階から入学決定までのプロセスにおいて、マーケティング・チャネル毎に重点施策を定め、それらに基づいて行われている。例えば認知段階では大学ランキングや評判、ブランディング、インフルエンサー (影響を与える人) を、出願検討段階では大学のウェブサイトやソーシャルメディアなどを重点施策に定めている。

高校生へのリクルートメントは、ターゲットとなる国を定め (中国と東南アジアがトッププライオ

⁹ Australian Government Department of Foreign Affairs and Trade 発表の「AUSTRALIA'S TOP 25 EXPORTS, GOODS & SERVICES(a)」より。

¹⁰ The University of New South Wales では International Office に 65 名が所属している。

¹¹ 1980 年代から 2000 年代初頭までに生まれた人をいうことが多い。インターネットが普及した環境で育った最初の世代で、情報リテラシーに優れ、自己中心的であるが、他者の多様な価値観を受け入れ、仲間とのつながりを大切にするとされる。(「コトバンク」より)

リティ、次いでインド、韓国、日本、北米、ヨーロッパなど)、各国のエージェントに委託をしている¹²。高校訪問や留学フェアへの参加など、高校生への直接的なアプローチの多くはそれらエージェントが担い、大学側はエージェントへの教育や最新情報の提供を行っている。The University of Sydneyでは明言していなかったが、UNSWにおいては、アジアだけで100社程度のエージェントにリクルート業務を委託している。

4. アドミッション

国内外対象のアドミッションは16の学部毎にチームに分かれていたが、2013年に10月に全てのアドミッションが1つの組織に集約された¹³。組織内では、ブルー、イエロー、パープルなど、色に分けてチーム制(6チーム)を敷いており、それぞれにマネージャーを配置している。マネージャーは4人、スタッフが23人。各チームで複数の学部を担当しており、国内外を問わず受験生に対応している。このように、国内外のアドミッション業務を一つの組織(チーム)が担当しているのは、豪州国内でThe University of Sydneyのみである。

留学生は、Online Administration Systemを利用し出願する。出願要件は、豪州の教育訓練省が運営するCountry Education (CEP) Onlineを参考に、各国毎に基準を定めている(図1)。The University of Sydneyでは原則として書類選考のみで、学部からのアセスメントをもとにアドミッション部門が合否を判断し、出願から2~4週間で結果を通知している¹⁴。合格した学生はデポジットを支払う必要が有るが、11月30日から履修登録をすることができる(VISAを取得する前でも履修登録可)。

Asia - 2016 University of Sydney Qualifications Entry Guide for International students

Course Name	English Requirement - IELTS	2016 International ATAR guide	USFP 2016	USFP English	GCE 3 A Levels	Hong Kong - HKDSE	IB	Malaysia - STPM 3	Malaysia - STPM 4	Malaysia - UEC	Malaysian Metric	Singapore A Levels	South Korea - CSAT	Thailand
Agriculture and Environment														
B Science in Agriculture	6.5 (6.0)	71.70	6.4	C	CCCd	15	26	6	5	B3	2.00	270	303	54/2.2
B Food and Agribusiness	6.5 (6.0)	75.25	6.7	C	BCCd	16	27	9	8	B3	2.30	290	309	60/2.4
Architecture, Design and Planning														
B Design in Architecture	7.0 (6.0)	90.00	7.5	C+	AAB/ABCc	20	33	16	16	A1	3.25	340	334	82/3.3
B Design Computing	7.0 (6.0)	75.65	6.7	C+	BCCd	16	27	9	8	B3	2.30	290	309	60/2.4
B Architecture and Environments	7.0 (6.0)	80.00	6.9	C+	ABC/BBB	17	29	11	10	A2	2.60	300	315	66/2.6
B Design in Architecture/ B Laws	7.5 (7.0)	94.50	8.0	B-	AAA/ABBC	23	37	19	19	A1	3.60	360	347	92/3.7
B Design in Architecture (Hons) / M Architecture	7.0 (6.0)	n/c	n/c	C+	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c
Arts and Social Sciences														
B Arts	6.5 (6.0)	77.50	6.8	C	BCCd	17	28	9	9	B3	2.40	290	312	64/2.6
B Arts (Dual Degree, Sciences Po, France)**	6.5 (6.0)	A+C	A+C	C	A+C	A+C	A+C	A+C	A+C	A+C	A+C	A+C	A+C	A+C

(図1: Asia - 2016 University of Sydney Qualifications Entry Guide for International students¹⁵)

¹² ターゲットとなる国に若干の違いはあるものの、訪問した5大学はほぼ同様であった。

¹³ Direct Administration Modelと呼んでいる。

¹⁴ RMITは4~5日間

¹⁵ The University of Sydney HPより

5. 所感

英国や米国、豪州やマレーシアなど、留学生を積極的に受け入れている国が増えている。これらの国々では、授業料完全徴収型で留学生を受け入れており、積極的にリクルート活動をしている。一方で日本でも2008年に留学生30万人計画が発表され、各大学が国際化へ向けて歩んではいるものの、奨学金支給型が多いのが現状である。日本の18歳人口は減少傾向にあり、2016年の119万人から10年後の2026年には107万になり、12万人減少する。現在の進学率（約55%）で考えても、6万6千人が減少することになる。縮小均衡政策を取る大学もあると考えるが、教育内容を充実させ、国内外の高校生に魅力あるカリキュラムを構築し、世界的な評価を向上させ、授業料完全徴収型で留学生を受け入れる体制作りが急務であると感じる。

Ⅲ章：豪州の留学生選抜およびリクルート戦略＝RMITの事例 Admissions/Recruit Strategies and Practice in Australia: RMIT in Melbourne

<大阪大学 高等教育・入試研究開発センター兼インターナショナルカレッジ教授 三森 八重子>

1. 豪州の大学の特徴

豪州では、後期中等教育（高等学校）後の教育は「第3段階教育（Tertiary Education）」と呼ばれ、これには大学などの高等教育機関、職業訓練機関のほか留学生向け教育提供者が含まれる。現在、提供する高等教育コースの自己認証権が与えられている高等教育機関はおよそ40あり、主として大学である¹⁶。

豪州では1986年より、海外出身の学生から学費の全額を徴収できるようになった。大学側は機関収入の増加を期待して、多くの留学生を獲得するため、質の高い教育を行う機関として、留学生市場へ積極的に参入しはじめた¹⁷。今日では豪州政府は、留学生受け入れを第3の産業と位置付け、国を挙げて様々な施策を講じている¹⁸。

豪州政府教育訓練省が発行しているResearch Snapshotによると、世界の留学生のホスト国として、豪州は、米国(19.4%)、英国(10.3%)に次ぐ第3位(6.2%)となっており、全学生に占める留学生の割合は、ルクセンブルクに次ぐ第2位となっている¹⁹。豪州の高等教育機関で学んでいる留学生の割合は

<http://sydney.edu.au/dam/corporate/documents/study/admissions/apply/entry-requirements/ug-academic-requirements/UniSyd-2016-Asia-Entry-Qualifications.pdf>

¹⁶ 「諸外国の高等教育分野における質の保証システムの概要：オーストラリア」独立行政法人大学評価・学位授与機構、第2版2015年2月、P.11

¹⁷ 「諸外国の高等教育分野における質の保証システムの概要：オーストラリア」独立行政法人大学評価・学位授与機構、第2版2015年2月、P.16

¹⁸ 豪州外務貿易省ウェブサイト AUSTRALIA' s TOP25 EXPORTS, GOODS & SERVICES

¹⁹ Research Snapshot by Department of Education and Training, Australian Government, Feb. 2016

25.7%であり²⁰、そのうち中国からの留学生が27.3%、インドからの留学生が10.8%を占める²¹。

2. 豪州の大学アドミッションズオフィス・リクルートの概要

豪州の大学には“入学試験”がなく、豪州の高校で学ぶ高校生で大学進学を目指すものは、各州がおこなう統一試験を受けてその成績（ATAR）と高校の成績により大学の合否が判断される。

豪州の大学の学部入学をめざす留学生向けには、多くの大学で豪州の高校卒業生とは別のアドミッションズオフィスがあり、豪州の高校で学ぶ高校生とは異なる基準で大学への合否が審査される。以下に、豪州の有力な大学である RMIT を例にとり、留学生向けのアドミッションおよびリクルートについて解説する。以下は現地でのヒアリングを基にまとめたものである。

3. RMIT の概要

RMIT は 1887 年に Working Men' s College of Melbourne の名称で職業訓練校として設立された。1934 年に Melbourne Technical College へ、さらに 1960 年には、Royal Melbourne Institute of Technology へと名称を変更した。1979 年にはファッションなどで定評のある女子大、Emily McPherson College of Domestic Economy と合併した。1990 年代にはほかの教育機関も吸収し、1992 年に大学として承認された。1993 年には、Melbourne College of Decoration and Design が RMIT と合併した。

現在では、およそ 8 万 2 千人の学生が学び、5 千人の教員、事務職員が働く豪州最大級の大学となっている。メルボルン市に 3 つのキャンパス²²があるほか、ベトナムのホーチミン市とハノイ市にもキャンパスを持っている。豪州の 3 つのキャンパスだけで、全学生の 16%にあたる 1 万 2 千人の留学生が学んでいる。3 つのカレッジ²³を持ち、600 以上のプログラムが提供されている。

4. RMIT のアドミッションズオフィスの組織

留学生の入試選考は、インターナショナル・アドミッションズ・オフィスが担当している。

RMIT のインターナショナル・アドミッションズ・オフィスには 6 つのチームがあり、25 人のスタッフが働いている²⁴。

チーム 1. College of Business Team

²⁰ 「諸外国の高等教育分野における質の保証システムの概要：オーストラリア」独立行政法人大学評価・学位授与機構、第 2 版 2015 年 2 月、P. 14

²¹ Research Snapshot by Department of Education and Training, Australian Government, Feb. 2016

²² Melbourne City Campus, Bundoora Campus, Brunswick Campus の 3 つのキャンパスがある。

²³ College of Business, College of Design and Social Context, College of Science, Engineering and Health

²⁴ AO の人員は大学により様々である。たとえば UNSW は 35 人、The University of Sydney は 25 人、La Trobe 大学はリクルート人員を含めて 24 人である。

チーム 2. College of Design and Social Context Team

チーム 3. College of Science, Engineering and Health Team

チーム 4. On Shore Team

チーム 5. Sponsorship Team

チーム 6. Conversion Team

チーム 1 からチーム 3 は、RMIT のそれぞれのカレッジを担当しており、チーム 4 は豪州に滞在している外国人（留学生）を担当している。チーム 5 は外国政府のスポンサーシッププログラムを担当しており、チーム 6 は、迅速なスクリーニングを必要とするプログラムを担当している。チーム 1～チーム 4 には、シニアアドミッションズオフィサー（SAO）三人とアドミッションズオフィサー（AO）が二人ずつおり、チーム 5 と 6 には二人ずつスタッフがいる。

新任の AO は、5 週間のトレーニングプログラムに参加したのち、経験のある AO との 1 対 1 の OJT を受ける。

5. RMIT のアドミッションズオフィスの留学生選考の仕組み

アプリケーションの受領：

RMIT のアプリケーションは RMIT が持つ申請用のプラットフォームを通じてすべてオンラインで提出される²⁵。同プラットフォームは、RMIT のアドミッションズオフィスが独自に開発し維持している。IT 専門家はいない。

合否決定にかかる時間：

RMIT は留学生向けに 400 を超えるコースを提供しており、毎年、5 万件を超えるアプリケーションを受け付ける。

これに対して Turn Around Time（アプリケーションの受領から合否の結果の送付までにかかる時間）を、On Shore（受験生が豪州に滞在しており国内から応募してくるケース）の場合は 24 時間、Off Shore（受験生が海外におり、海外から応募してくるケース）の場合は 4～5 日間と設定している。（Conversion の場合は 48 時間）²⁶。RMIT で、合否送付までのリードタイムを 24 時間あるいは 4～5 日と極めて短く設定している理由は、受験生は、初めに合格通知をもらった大学へ進学するケースが多いためであ

²⁵ すべての豪州の大学がすべての願書をオンラインで受領しているわけではない。たとえば La Trobe では、オンラインで願書を受領する割合は 10%～20%であり、残りの 80%～90%は紙ベースの願書を受領している。

²⁶ Turn Around Time は大学により大きく異なる。La Trobe では、AO が審査する場合は 2～3 日、カレッジに願書を送付する場合は数か月である。UNSW の場合は On Shore の場合は、48 時間、フォローアップが必要な場合は 2 週間である。

る。

アドミッションズオフィスが扱うアプリケーションの範囲：

留学生から送られてくる5万件のアプリケーションの内、アドミッションズオフィスが合否を判断するのは70%である。残り30%は各カレッジに送付され、カレッジの教員が合否判定を行う²⁷。

カレッジに送付されるアプリケーションは、アドミッションズオフィスでは判定が困難なもの、すなわち、①ポートフォリオの提出が課せられているコース（たとえば芸術コースの絵画、デザインコースのデザイン画など）や、②論文(essay)執筆が課されているコースなどである。

面接（インタビュー）：

原則面接は行わないが、建築コース、ファッションコース、薬学コースなどの一部のコースは受験生に面接を課している。面接はスカイプを通じて行う²⁸。

6. 選考結果の送付：

審査結果はインターネットを通じて受験生に送付する。5万件のアプリケーションの申請に対して、およそ4万件のオファーを出す。

オファーには、①Unconditional Pass（条件なしの合格）②Conditional Pass（条件をクリアした場合に合格となる）③Packaged Pass（複数のプログラムを組み合わせたオファー）の3種類がある。

パスウェイ：

RMITでは受験生の能力に応じたパスウェイを提供する。たとえば、Bachelor, Diploma, Foundation, English Program などの中から1つのプログラムを提案する、あるいは複数のプログラムを組み合わせたコースを提案する。

7. RMITの豪州移民局への対応

豪政府は、厳格な移民対策を大学に課している。RMITは豪政府の厳格な移民政策に従い、留学生を厳しく審査している。豪政府は、移民のリスクを鑑みて、豪大学をランク1～ランク3に3分類している。すなわち、ランク1が移民リスクの低い大学、ランク2は中程度の大学、ランク3がリスクの高い大学である。多くの豪州の大学はランク2に分類されているが、RMITはランク1に分類されている。

²⁷ A0 オフィスが審査する割合は大学により異なる。たとえば UNSW では応募者の98%の書類をA0が審査し、2%がカレッジの教員に送られる。

²⁸ 面接を行うか否かは大学により異なる。UNSWでは原則面接を行わず、医学部など一部の学部のみ面接を行う。

移民リスク対応のための留学生向け面接：

移民リスク低減の対策として、RMIT では一部の国からの受験生に面接を課している。現在はインド（の一部の州）およびパキスタンからの受験生に面接を課している。

面接はスカイプで、20分程度行う。決まったフォーマットに従い、受験生に対して豪州へ来る目的、RMITでの学習計画、モチベーションなどを質問する。RMITへ応募してくる学生の出身国で一番多いのは中国からの留学生であるが、中国人受験生に対して面接は行っていない²⁹。

8. RMITのリクルートオフィスの組織

RMITのリクルートオフィスには10~12人のスタッフがあり、地域別の6つのチームを作りリクルート活動を行っている³⁰。

チーム1：South East Asia（タイ・ベトナムを除く）

チーム2：China

チーム3：Australia Pacific

チーム4：Americas and Europe

チーム5：Middle East, South America, Africa

チーム6：Asia（日本、タイ、ベトナム、台湾、韓国）

9. RMITのリクルート活動

RMITはリクルートにエージェントを多用している³¹。実際のところ応募してくる留学生の80%がエージェントを介して申請してくる。1つの理由は、国際リクルートには費用がかかるため。受験生一人当たり、（エージェントへのコミッションを含めて）2千豪ドルがかかるといわれている。

10. 現在の課題

多くの応募者を受け、成功裏に教育事業を展開しているように見えるRMITであるが、RMITも多くの課題を抱えている。

課題1. 政権の変更による政策の変化：政権が変わると政策が変わる。豪州では最近も政権が変わり、そのため移民政策に変更があった。

²⁹ ほかの大学も移民リスク対応のためのインタビューを行っている。La Trobeでは一部の学生にスカイプあるいは対面の面接を行っている。

³⁰ リクルート組織の構成および人員は大学により異なる。La Trobeはアドミッションズとリクルートが同じオフィスにあり、地域ごとにチームを形成している。

³¹ ヒアリングを行ったすべての大学が多くのエージェント使い、多くの留学生はエージェントを介してアプリケーションを申請している。

課題 2. 競争の激化：大学間の競争がますます激化しており、今や競争相手は豪州の大学ばかりでない。米国、英国、中国など世界の大学と競争していかなければならない。

課題 3. 申請文書の改ざん、偽の文書：不正行為は実際のところある。これに対する容易な解はない。しかしながら、RMIT は現在のところ、面接対象国を増やす予定はない。

11. 所感

短い Turn Around Time: RMIT の Turn Around Time は 24 時間と、ほかの豪大学と比較しても極めて短い。ワークフローに適したアプリケーションプラットフォームを独自に構築し、同プラットフォームをうまく活用して少ない人数で迅速に審査をおこなっているのに感銘した。

ベトナムキャンパス：豪州の大学では留学生比率が 25% とかなり高くなり、留学生が多すぎるとの不満も出始めている。RMIT のベトナムの海外キャンパスは大学の多様性を担保しながら、留学生の要望も満たす良好な解をあたえると思われる。

エージェントの活用：RMIT が受け付けるアプリケーションの数（5 万通）に比較して、リクルーターの数は少ない。エージェントをうまく活用して、少ないリクルーターで成功裏に多くの受験生を集めている。

謝辞：本記事は豪州での関係者とのヒアリングを基に作成したものである。訪問を引き受けてくださった RMIT およびほかの大学の関係者にこの場を借りて謝意を表明したい。